

初めに、今回の「第一夜」が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。

準備中にアルバムジャケットの掲載が出来ないかと調査・検討しておりましたが、著作権法に触れるジャケットの掲載は断念せざるを得ませんでした。ジャケ買いという言葉があるくらいに魅力的なデザインが多いアルバムジャケット。残念です。

第一夜「08-CAFFE」

最初に、私の個人的な思い入れから始めさせていただきます。第一夜を「CAFFE」としました。コーヒーではなくカフェとしたのは加藤和彦に敬意を込めてのこと。彼は団塊世代の稀有なアーティストです。そして現在の日本のポップス繁栄の土台を築いたパイオニアの一人です。歌謡曲と演歌の世界から弾けるようにグループサウンズが登場します。それまでは作詞家や作曲家の楽曲が中心でした。そこに海外アーティストに刺激されて、各地で生まれ、青竹のように伸び始めたのがシンガーソングライターです。その時代の星が加藤和彦でした。今では当たり前の自主レーベルも、彼がトップランナーとして根付かせたもの。その彼の代表的アルバム「パパ・ヘミングウェイ」からこの2曲。



・01-「スモール・カフェ」 加藤和彦

・02-「ADRIANA」 加藤和彦

No	曲名	歌手	アルバム	アルバム発売日	作詞	作曲
1	SMALL CAFÉ	加藤和彦	パパ・ヘミングウェイ	1979.10.25	安井かずみ	加藤和彦
2	ADRIANA	加藤和彦	パパ・ヘミングウェイ	1979.10.25	安井かずみ	加藤和彦

加藤和彦が北山修らと結成し1年限定で活動したバンド「ザ・フォーク・クルセダーズ」。1967年12月発売の「帰ってきたヨッパライ」は空前のヒット曲となり、日本初のミリオンシングルを記録します。当時驚きをもって迎えられたテープの早回しでしたが、「オラは死んじまったダ…」と口答えする子供に手を焼いた親や教師も多いはず。第2期ソロ活動の中で作詞家の安井かずみが登場しますが、運命的な出会いだったようです。1976年の「それから先のことは…」以降のアルバムは作詩を安井が担当しています。1977年に安井と挙式、そこから加藤の珠玉のアルバムが続きます。

1979年の「パパ・ヘミングウェイ」はその頂点とも言える作品ですが、心躍るような曲が並びます。特にアルバム3曲目の「ADRIANA」は安井とのデュエット？も披露。アルバムクレジットには記載されていないのですが、安井の唯一のアルバム「ZUZU」を入手して聴き比べました。このアルバム「パパ・ヘミングウェイ」は、カリブ海の島国バハマでレコーディングされたのですが、海外録音がまだ珍しい時代に実現した壮大なプロジェクトであり、あまりに豪華なバンドメンバーには驚きの一言です。

この類まれな加藤と安井の共作スタイルは1994年3月の安井の死で終わりを告げます。その15年後の2009年10月に加藤は自死を選びます。葬儀で公開されたのは「世の中が音楽を必要としなくなり、もう創作の意欲もなくなった。死にたいというより、消えてしまいたい」という遺書。しかしそうでしょうか。加藤の楽曲「あの素晴らしい愛をもう一度」や「悲しくてやりきれない」は今も時代を越えて心に残り、同じ思いの方も多いでしょう。「スモール・カフェ」はスマートで明るく、イントロから新しい時代の幕開けを告げるように心が高鳴ります。しかしエンディングは断ち切られて印象的に終わっている。「ADRIANA」に刻まれた加藤と安井の初々しい高揚感は、明るい時代に向かう羅針盤にも思えるのです。

「世の中が音楽を必要としなくなり」なんてあり得ない。安井がいない時代の15年を生きた加藤。どんなに強い愛や想いであっても、心を閉ざさずに少し離すことができればどうだったのか。加藤の「(音楽で) 同じことは二度としない」というテーゼも気になります。加藤の心が壊れてしまわないのかと。

・03-「心離れるとき」 ハイ・ファイ・セット

No	曲名	歌手	アルバム	アルバム発売日	作詞	作曲
3	心離れるころ	ハイ・ファイ・セット	4Best Best Setting	1984.03.12	大津あきら	南佳孝

ハイ・ファイ・セットの曲です。作詞は大津あきら、作曲は南佳孝です。南は団塊ミュージシャンの一人（1950 年早生まれ）で学齢は私と同じです。自分が歌うだけでなく提供曲も多い。「モンロー・ウォーク」などのリズムカルで明るい楽曲が多い中で、「心離れるとき」は全く異なるメロディーラインです。すごい曲を作っていたことに頭が下がるし、もっと広く知られてよい名曲だと思います。Time passing by…のリフレインがとても印象的。「時が経つこと」の意味を考えさせられます。

この美しい曲は山本潤子の歌唱によるところが大きいのですが、彼女のスタートは伝説のフォークグループ「赤い鳥」です。

・04-「坂のある町」 さだまさし

4	坂のある町	さだまさし	ADVANTAGE	1985.06.12	さだまさし	さだまさし
---	-------	-------	-----------	------------	-------	-------

歌詞には珈琲店とありますので、喫茶店にランクすべきだと思うのですが、曲調や心繫がりの詩からここにしました。さだまさしはデビュー時から感性豊かな詩とバイオリン、そして歌唱で琵琶法師のような存在です。「防人の詩」「風に立つライオン」「一粒の麦 ～Moment～」など、史実を伝承するように詠っています。また故郷である長崎の記憶を歌い続けてもいます。長崎は坂の多い町、小さな祭りも多い町です。この街で育まれた彼の叙情の泉は枯れることがない。コンサートでは歌唱よりもトークが楽しい、という逸話も聞きますが、時としてその言葉はとても切れ味が鋭いです。

・05-「熱いさよなら」 五輪真弓

5	熱いさよなら	五輪真弓	Anniversary Eve	1991.09.11	五輪真弓	五輪真弓
---	--------	------	-----------------	------------	------	------

五輪真弓の名曲を選びました。フランスの香りを伝えるアーティストの一人ですが、大ヒット曲の「恋人よ」を知る人は多いですね。この名曲については別の機会に触れるつもりです。しかし伝説のエピソードをいくつか有する彼女にはコンサートが似合います。他にもデビュー曲の「少女」や「煙草のけむり」を始め数々の名曲があります。私事ですが彼女の曲ばかり、3 時間余り聴いていることもあります。彼女の優しい声の響きに引き込まれながら。

・06-「CAFÉ BROKEN HEART」 織田哲郎

6	CAFE BROKEN HEART	織田哲郎	CAFE BROKEN HEART	2017.07.05	織田哲郎	織田哲郎
---	-------------------	------	-------------------	------------	------	------

織田哲郎 2017 年 7 月の曲です。人生には心が壊れるほどに深く傷つくことがあるもの。叫べない、口にも出せない大人にこそ、癒せるカフェがあってもいい。壊れたピアノから始まる素朴なメロディーに涙を隠し、すすり泣きを堪える。それでも確実に明日は来るのです。男らしい包容力溢れる一曲です。東京生まれでロンドン育ちでとのことですが、高知出身でもあります。「ちびまる子ちゃん」の初代オープニング曲を歌った関ゆみ子（現・有馬ゆみこ）が従妹と知り、エー！これは個人的に大きな驚きでした。彼女のお父様には仕事でご指導いただいたことがあり、とても感謝しています。

・07-「Café Blue」 大橋純子

7	Cafe' Blue	大橋純子	ミスセレナス	1993.02.01	JUNKO	佐藤健
---	------------	------	--------	------------	-------	-----

大橋純子の名曲です。ヒットしようがしまいが良いものは良い、と声に出したい思いで入れました。前曲(06)と同じく BROKEN HEART とカフェの壊れたピアノが登場します。誰かしらが弾くピアノの音が静かに流れる虚ろな時間。その余韻

はカフェやバーを彩る一面と言えるでしょう。

歌唱力は折り紙付きの彼女ですが、この曲は彼女（JUNKO）の作詞、作曲は佐藤健というご夫婦の共作です。有名なヒット曲もたくさんある彼女ですが、自身の作詞ということもあって、言葉一つ一つの存在感が素晴らしい。シングルカットされていない名曲にたどり着いた時はいつも感動します。こういう奥行きの深いアーティストの活躍の場がいつまでもありますように。

・08-「Cafe」 石井竜也

No	曲名	歌手	アルバム	アルバム発売日	作詞	作曲
8	CAFÉ	石井竜也	SKETCH	2005.03.24	石井竜也	石井竜也

とにかく裾野が広い石井竜也ですが、やはり彼の曲はいいです。カールスモーキー石井という米米クラブでの名前を離れ、本名で再出発した彼のこういう楽曲を聴くと、新しい一面を見たようでハッとします。いわゆる人気曲ではない隠れた名曲に巡り合えるのがアルバムの魅力。特に「カフェやコーヒー」をキーワードに視聴を重ねた今回のような時間がなければ、出会えなかった曲も多いのです。至福のチャレンジになっていく予感があります。どんな芸術であれ、アーティストは全力を注いで作品を送り出します。多作な彼もその点は同じでしょう。詩のなかではコーヒーではなく紅茶が詠われますが、カフェでの時間、紅茶がふさわしいときもあります。楽しみはカフェで過ごす“至上の時間”ですから。

・09-「Paradise」 paris match

9	Paradise	Paris Match	11	2015.12.16	吉澤辰勲	杉山洋介
---	----------	-------------	----	------------	------	------

Paris match の曲です。ずっと気になっていたグループです。結成は 1998 年ですがスタートは 3 人。今は 2 人ですが、この曲は 3 人時代のメンバーである吉澤辰勲の作詞です。離れたといってもサポートメンバーとしての活動は継続しているようです。作曲はリーダーの杉山洋介。歌いこなすにはとても難しい詩だと思うのですが、ヴォーカルのミズノマリの歌唱が素晴らしい。目を閉じて聴いていると、豊かな表現力と哀愁漂うそのヴォーカルに感動します。

そして paris match で特筆すべきはカフェやコーヒーの楽曲がとても多いこと。これからも頻繁に登場していただきます。今回のコーヒー楽曲の検索で知り得たことに感謝しています。

・10-「strawberry mint」 米倉利紀

10	strawberry mint	米倉利紀	rough lux	2014.02.12	toshinori YONEKURA	toshinori YONEKURA
----	-----------------	------	-----------	------------	--------------------	--------------------

米倉利紀の軽快な楽曲です。経歴も長く、1995 年頃からシンガーソングライターとしても活動を始めています。現在はカリフォルニア在住という彼は英語詩をリズムカルに使います。今回は入れられなかったのですが、彼の「realize」という曲はカフェが舞台の数少ないデュエット曲で、お相手の多和田えみも沖縄出身で現在はオーストラリア在住とのこと。グローバルなコンビですが、これからこうしたアーティストが多くなるかも知れないですね。もちろん「realize」もとても良い曲です。お勧めします。

・11-「45 分」 古内東子

11	45 分 (Album Ver.)	古内東子	winter star	1999.12.01	古内東子	古内東子
----	-------------------	------	-------------	------------	------	------

歌姫としてヒット曲を連発した古内東子の曲です。本名ですが、印象的な名前に感心したことを覚えています。

長い付き合いの二人に定番の待ち合わせフレーズは「いつもの場所で」。詩は 45 分待つて来れないとの連絡から始まります。とてもハチ公前では待てない。カフェがあることで、待ち合わせのバリエーションが広がったことに気がきます。

雑誌を抱えていることから待つ準備も万全と見ましたが、しかし来れないとの着信。歌詞中の繊細な機微のあれこれに感服です。「こういう時間が大好き、だから、時計を見ないように」、「寂しい気持ちを乗り越えれば、きっと明日になる」。彼女らしい表現です。

・12-「Wish on the hill」 木根尚登

No	曲名	歌手	アルバム	アルバム発売日	作詞	作曲
12	Wish on the hill	木根尚登	REMEMBER ME?	1996.11.25	木根尚登	小室哲哉

木根尚登というシンガーを余り知らなかったのですが、若い心に寄り添うカフェの存在の確かさと、そこに想いを刻む人たちの心が詠われます。本人が作詞、小室哲也作曲というこの曲、「人影の無いカフェ」から始まります。「いつまでも君と歩いていたい 落葉の丘 冬の散歩道を二人」。誰も夢を叶えたいと思うものですが、願いは「いつの日にか あきらめかけた夢を もう一度 君とかなえたい」、で終わります。

もう一度、は多くの場合叶わない夢ですが、それでもそう願う心は閉ざせない。弱さも、もしかしたら強さかも知れないと思うシーンに気がきます。

・13-「地図」 辛島美登里

13	地図	辛島美登里	IN YOUR EYES	1995.02.22	辛島美登里	辛島美登里
----	----	-------	--------------	------------	-------	-------

クリスマスシーズンの定番となった「サイレント・イブ」の辛島美登里の曲です。

国土地理院発行の 5 万分の 1 や 20 万の 1 の地形図は、若い頃の記憶としてルートをなぞった何部かが手元にありますが、地図は多くの人にとっての道標です。

「路地の café はなくなっていた、あなた捜せない」と歌われますが、思い出や地図の記憶は残っています。しかし大切な手掛かりを見失い、もう捜せない。その気持ちを表す色は…すべてがセピア。

心情を地図で表す歌詞が美しく、その詩を彼女が心を入れて歌う。とてもいい曲です。

・14-「恋人」 徳永英明

14	恋人	徳永英明	シングルコレクション	1998.11.21	徳永英明	徳永英明
----	----	------	------------	------------	------	------

ボーカリスト徳永英明の曲です。多くの提供楽曲を歌いこなす彼ですが、この曲は彼自身が作詞・作曲しています。カフェには様々な動機で人が訪れます。それぞれの動機やシーンは違って、ここに居ることの現在（いま）を静かに包み込むカフェの存在。しかしそこカフェに戻ることが出来たとしても、同じ昔に戻れたわけではない。こうした人生の難しさは理解できます。

カバーアルバムが 6 枚を数える彼の歌唱は圧倒的で、VOCALIST の面目躍如といった感があります。しかし近年体調不良によるコンサートの延期もあり、心配しています。

・15-「サーフ天国、スキー天国」 松任谷由実

15	サーフ天国、スキー天国	松任谷由実	SURF & SNOW	1980.12.01	松任谷由実	松任谷由実
----	-------------	-------	-------------	------------	-------	-------

日本のポップス界をけん引してきた松任谷由実の曲です。彼女の豊かな表現と明るく包容力のある楽曲に励まされることも多かった時代、2 大レジャーが夏のサーフィンと冬のスキーでした。歌は時代背景を映し出す鏡のようなもの。その時代の証であり、多くの記憶に染められています。その時代の歌詞に詠まれた「コーヒー」の記憶を辿りたいと私が考えた理由です。

曲は違うのですが彼女の曲で印象に残る一つが、八王子や甲府に向かう夕方、西日を突いて走る中央高速の爽快さです。そう「中央フリーウェイ」。「右に見える競馬場、左はビール工場、この道はまるで滑走路、夜空に続く」。

逢いたい人に向けて車を飛ばす。確かそんな友人がいたような。

・16-「まさか・TOKYO」 寺尾聡

No	曲名	歌手	アルバム	アルバム発売日	作詞	作曲
16	まさか・Tokyo	寺尾聡	Atmosphere	1983.12.11	有川正沙子	寺尾聡

俳優であり歌手でもある寺尾聡の曲です。彼はカレッジ・フォーク・グループ「ザ・サベージ」のベース担当でした。在籍は長くないのですが、その後はソロとして活動、レコード大賞受賞など大きな成功を手にかけています。歌手としてはレコード大賞受賞曲の「ルビーの指輪」が有名ですが、この「まさか・TOKYO」もしみじみいい。

役者としても大変評判のいい作品が多く、時代劇の名作「雨あがる」（日本アカデミー賞・主演男優賞）を始め、第一回本屋大賞受賞作の小川洋子原作「博士の愛した数式」など、いずれも何度も視聴しました。「博士の愛した数式」では主役 4 人の響き合うハーモニーが素晴らしかった。寺尾聡、深津絵里、吉岡秀隆（子役時代・斎藤隆成）、浅丘ルリ子。この作品から原作者である小川洋子の小説やエッセイなどに親しみました。

演技者として自らの道を直向きに歩むその姿は本当に格好いい。彼は日本アカデミー賞とレコード大賞をダブルで受賞した初めてのアーティストとなりましたが、いまだにその偉業は彼だけしか成しえていないのです。

・17-「CAFÉ FLAMINGO」 安部恭弘

17	CAFÉ FLAMINGO	安部恭弘	Hold Me Tight	1983.03.01	松本隆	安部恭弘
----	---------------	------	---------------	------------	-----	------

作曲家や音楽プロデューサーである安部恭弘の曲です。理工学部建築学科卒で大手ゼネコンに入ったものの、音楽への夢を捨てきれずにエスケープ。楽曲提供は稲垣潤一や鈴木雅之など実力派シンガーが多いです。

この曲名「CAFÉ FLAMINGO」は彼の Official Website の副題となっているので、代表曲の一つと言えるでしょう。都会的なセンスはさすがです。

この曲は松本隆が作詞。松本も団塊ミュージシャンの一人で、日本語ロックの原点となる「はっぴえんど」のメンバーでした。“いっぱい本を読んでいるから歌詞を書け”というメンバーの無茶ぶりから、プロの作詞家になったというエピソードがあります。松本がその当時に高く評価した曲「からっぽの世界」（1968 年、ジャックス・作詞作曲・早川義夫）のこともどこかで取り上げたいと思っています。

・18-「髪なんか切ったりしない」 普天間かおり

18	髪なんか切ったりしない	普天間かおり	ゆらぎ	2004.09.23	普天間かおり	普天間かおり
----	-------------	--------	-----	------------	--------	--------

普天間かおりの曲ですが、彼女は沖縄出身のシンガーソングライター。彼女を知ったのはある災害からでした。2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分頃、東日本大震災です。その時、彼女はラジオ福島での番組 On Air 中に、未曾有の揺れに遭遇したのです。詳しくは彼女のブログに譲ります。参考までに日付は震災の 1 週間後です。

普天間かおり ブログ <https://futenmakaori.ti-da.net/d2011-03-18.html>

まさにその時、近くの病院でリハビリを始めた私は、長く続いた強い揺れに恐怖を覚えていたのですが、震源に近く、被害も大きい福島での衝撃は、彼女のその後を変えたのでしょうか。何度も被災地を回り、復興支援活動が続いています。

彼女の姓である「普天間」は沖縄県宜野湾市の一部で米軍普天間基地があるところ。私自身、現地の代理店応援で何度も宜野湾市を訪れていますが、ゲートやフェンスの向こう側の巨大な基地の存在に、言葉を失ったことは忘れられません。

また琉球王朝の子孫でもあるという彼女は、2019 年 10 月 31 日に発生した首里城火災という悲劇にも対峙しています。中継で見たその光景は筆舌に尽くしがたく、痛ましいものでした。切に再建・復興を祈ります。

・19-「SAKURA CAFÉ にて」 小田純平

No	曲名	歌手	アルバム	アルバム発売日	作詞	作曲
19	SAKURA CAFE にて	小田純平	ベスト・アルバム-Just On-	2020.01.29	masaru	Junpei Oda

小田純平の曲です。男らしい言葉の並びの中にも、やさしさや愛情は隠れている。歌だから気付くそれらの想いにリストの最後を任せました。聴くだけで癒され、励まされ、明日への希望や力を受け取れる気がしています。笑って生きることが出来ているのなら、誰にとっても「幸せは“きっと”そこにある」。しかし夢と現実の狭間で苦悶する人のなんと多い事か。

アーティストを目指す者もコーヒーを志す者も、結果はともかく後悔無きようにと願います。それが散らない桜であって欲しいと願います。

今回の楽曲一覧です ➡ https://www.cafegoods.com/musiclist/01_musiclist_08.pdf

歌の力とその素晴らしさ、カフェの美しさとその存在の確かさ、コーヒーの芳しい香りと分け隔てのないあたたかさ。コーヒーを生業とした多くの先輩たちの努力を思い、今この時を感謝しています。

前夜となる「コーヒーを謳う」でも書きましたが、アーティスト名・作詞者名・作曲者名の敬称は省かせていただきました。失礼をお詫び申し上げます。

また、記載した情報は Wikipedia や YouTube チャンネルの他、各アーティスト・音楽事務所・関連会社のホームページなどを参考にさせていただきました。改めて各位に御礼申し上げます。

APPLE MUSIC にプレイリストがあります。よろしければご鑑賞ください。“CAFFE” で検索いただければ 最奥（最下欄）近くで、美男のベートーベンがお待ちしております。何らかの原因でアクセスできない際はご容赦ください。

© 2022.03 Cafegoods co.,ltd. 小林 文夫